

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2024/11/05号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



急落後の急反発、荒れた展開に

NY原油先物相場は、1バレル=66.72ドルまで値下がりして10月1日以来の安値を更新した後、一時71.45ドルまで切り返す展開になった。週前半は改めて原油需給の緩和見通しを織り込む動きが優勢になり、年初来安値（65.27ドル）に迫る展開になった。しかし、その後は石油輸出国機構（OPEC）プラスの減産縮小延期の議論が浮上したこと、中東情勢が改めて不安定化するリスクが警戒され、安値から大きく切り返す展開になった。

複数の米メディアが、11月5日の米大統領選と前後して、イランがイスラエルに対する攻撃に踏み切る可能性を報じている。10月26日にイスラエルはイランの軍事施設に対して攻撃を行ったが、イラン国内でそれに対する報復攻撃を主張する声が強くなっている。当初、イスラエルとイランは軍事的緊張を更に高めることに対して慎重姿勢を見せ、マーケットは地政学リスクの織り込み一服から改めて需給緩和見通しを織り込んでいた。しかし、中東情勢の先行き不透明感が改めて強くなっている。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（10月25日時点）は、原油が前週比52万バレル減、ガソリンが271万バレル減、石油精製品が98万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

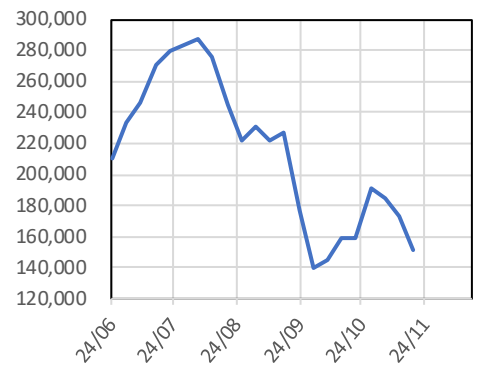
イランがイスラエル攻撃だと急伸の可能性あり

中東情勢に強く左右される地合になる。特に米大統領選前後にイランがイスラエルに対する攻撃に踏み切る可能性が複数のメディアで報じられており、イランも最高指導者ハネメイ師が報復攻撃を行う可能性を示唆している以上、売りポジション保有は警戒される地合になる。実際にイランの攻撃が行われない場合には、このまま70ドル水準で方向性を欠く展開が想定される。一方、イランが攻撃に踏み切った場合には、一気に75ドル水準まで跳ね上げる可能性も想定しておきたい。特にイスラエルがイラン石油施設に対する攻撃に踏み切るリスクが現実化すると、80ドル水準を試す可能性まである。

石油輸出国機構（OPEC）プラスの動向にも注意が必要。12月1日のOPECプラス閣僚級会合まではまだ時間が残されているが、需要が想定を下回っていることで、12月から予定されていた減産延長の議論が活発化し始めている。中東情勢とも関連するため結論を先送りする可能性もあるが、早ければ週内に何等かの動きが見られる可能性がある。OPECプラスが二回目の減産縮小の延期を決定すると、原油相場の下値不安は後退しよう。

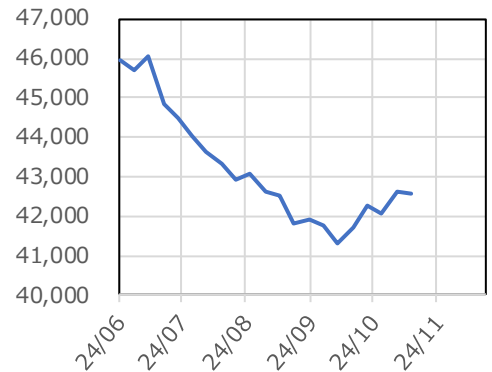
ただし、中東情勢を考慮に入れなければ、原油需給緩和と価格低迷が基本シナリオになる。需要の伸びが減速する一方、OPECプラス以外の主に中南米諸国からの増産圧力は強く、今後は大規模な供給障害が発生しない限りは、供給過剰傾向が強まる見通しにある。実際に、イランのイスラエル攻撃の可能性が報じられる直前までは、年初来安値に迫る展開になっていた。また、仮にイラン産原油に供給障害が発生しても、OPECプラスなどが大規模な増産余力を有しているため、需給ひっ迫状態は短期的なリスクに留まる可能性が高い。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



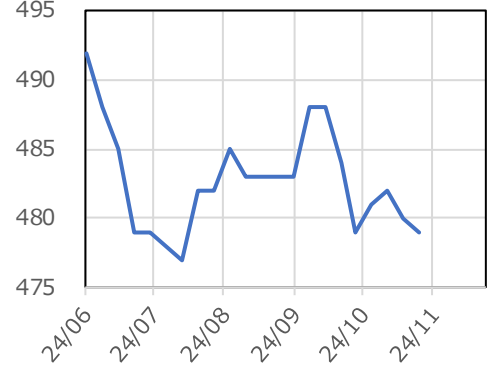
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

